



(挨拶の中坪達哉会長)

平成二十九年年度総会及び俳句大会は、樹々の緑の美しい六月三日(土)午後一時より北日本新聞ホールに於いて百三十余名の参加を得、開催された。坂田直彦幹事司会のもと、中坪達哉会長は「俳句は自然との共生つまり風土に根差した句作りこそがいずれユネスコの文化遺産に」と、挨拶。

平成二十九年年度 総会及び俳句大会 関悦史先生の講演を聴く

総会の議長に新保吉章理事を選出し、浅野義信事務局長が平成二十八年度の事業報告、収支決算報告を行い、大久保置筈監事が監査結果を報告し、これらを承認。さらに平成二十九年年度事業計画案、収支予算案を提案し、原案通り拍手で承認された。又役員改選年度に当たり中坪会長から現役員を再選した上で西尾博信理事、中村宗承理事、中屋敏子幹事退任に伴い一部改選を提案。森純子、大谷こうき両氏を理事に、中島廣志氏を幹事に、浜谷栄子理事を幹事に新しく就任することが承認され、全ての議案は可決し、総会は滞りなく終了する。

続いて「豈」同人、関悦史先生の記念講演に移る。演題は「生き延びるための俳句」で、隠喩より換喩、共感より驚異それは芭蕉のよみにも通じると力説。(講演要旨は別掲)

小憩後、俳句大会に移り、すでに出句



平成二十九年七月一日発行
富山市委佐町二一四
〒930-0094 電話 〇七六四四一四四
振替番号 金沢 五一一七二〇八
北日本新聞社編集局内
富山県俳句連盟

富山県俳句連盟
夏季吟行会(予告)
日時 七月十六日(日)午後一時より
会場 朝日コミュニティホール
アゼリア
朝日町平柳六八八
TEL 〇七六五八三二〇〇〇
(宮崎海岸、鹿島神社、芭蕉句碑ほか)

講師 梶井連理事 森野 稔 先生
締切 十一時半厳守
会費 二句出句 千円
交通 北陸自動車道 朝日インターより
車十五分
あの風とやま鉄道泊駅より
徒歩三分

されていた七〇四句(三五二名)について、講師及び連盟役員によって選考された特選句並びに入賞句を野中多佳子、田村京子両幹事が披露し、表彰式に移る。まず講師の関悦史先生より丁寧なる講評を戴く。続いて寺田幹北日本新聞社文化部長から北日本新聞社賞、又、中坪達哉会長から連盟賞をそれぞれに贈呈された。(成績は別掲)

但田長穂副会長が閉会の辞を述べ、総会、俳句大会は盛會裡に終了した。

富山県芸術祭主催
富山県民芸術文化祭参加
富山県俳句連盟秋季俳句大会(予告)
講師 富山大学名誉教授
鏡 森 定 信 先生
日時 十月七日(土)午後一時
会場 北日本新聞ホール
※第十一回越中讃歌募集句のテーマは住

合同句集(第四十二集)
原稿募集
句集を次のとおり刊行いたします。同封の原稿用紙により全員ござってご応募ください。

○作品数 十五句(平成二十八年七月から平成二十九年六月までの自選句)

○記載要領 所定の原稿用紙に姓号、(ふりがな) 作品(春夏秋冬の順が望ましい) 本姓名、生年月日、郵便番号、住所、電話番号、所属結社または句会名を記載する。希望者は住所等の未掲載も可。

かなづかいには新旧混用せず何れかに必ず〇を付けること。

○締切 七月二十二日 必着厳守。

○出句料 三千元(一冊進呈)

同封の振替用紙で原稿発送と同時に郵便局へ払い込むこと。

○送付先 〒九三五一〇〇〇五
氷見市栄町一〇一六
坂田直彦 方

富山県俳句連盟合同句集係宛
○刊行予定 十月

富山県俳句連盟合同句集係宛

春季俳句大会作品抄

関悦史先生特選句

校庭の機関車磨く春休み
赤子抱き花冷えをいう駅新し
散居村見馴れぬ道や風光る
さへづりといふ劇場に歩み入る
一つだけと云ひ二つ食ぶ桜餅
守光 敦子

連盟選者特選句

義 信選 虫出しの雷一村を覚ましけり
順 子選 東風吹くやベルがよく鳴る三輪車
冬 青選 海の音海に戻りて夏来たる
英 子選 春待つや子のままことの天こ盛り
玲 子選 合格の春は階段一段とび
康 裕選 はつ夏の窓荒彫りのある岳
置 箔選 鶯を連れて歩いていてるやうな
久 惠選 青き踏むずつと元気でいたいから
城 子選 国の名の旧き地球儀鳥雲に
ゆづ子選 雪解風鼓動始むる立山の峰
弥 生選 終ひ湯に嬰の香ほのとひひなの夜
富美子選 天井に妖怪のすむ春の風邪
美智子選 嬰のものどれも手洗ひ水温む
洋 子選 鶯を連れて歩いていてるやうな
直 彦選 嬰のものどれも手洗ひ水温む
重 子選 花種にひと言かけて時きにけり
一 子選 山笑う口に転ばす山羊の乳
吉 章選 立山の見えるホームや卒業す
桂 子選 田植機のリズムに乗りて吾が心音
恵 子選 生き過ぎとはほえむ母や青葉の夜
圭 二選 別れ多き齡となりて鳥雲に
昭 夫選 竹の子のどう包んでもおちつかず
眞知子選 受験子へ発車間際の富山弁
寿 山選 リハビリの日に日に力日脚伸ぶ
長 穂選 卒業歌よくぞ育ちし夜泣きの子
京 子選 うららかやはな咲くやうに嬰目覚め

三 久選 家買ふと春のキャベツを買ふやうに
達 哉選 嬰のものどれも手洗ひ水温む
三津夫選 春雪を真つ正面の足湯かな
宗 承選 卒業子真つ直ぐな目にある力
真理子選 門前に百年鷺ぎ寒造
美知子選 逝くときは銀河鉄道春田打つ
多佳子選 うららかやはな咲くやうに嬰目覚め
栄 子選 この星の行く末論し青き踏む
幸 子選 春田打つ山美しき里に住み
賢 子選 このぼり直立不動で風を待ち
千鶴子選 ふらここの心残り揺れ続く
稔選 ひと畝は半月あけて豆を蒔く
とある選 生きがいを一増やしてうらかし
白 羊選 卒業子真つ直ぐな目にある力
石灰 潤子
澤田 敏江
若土 逸子
桑名 幸子
田上眞知子
森 純子
澤井悠紀子
久次 節子
大坪沙智子
三鍋真知子
坂田 直彦
岡田 康裕
沖村 幸子
桑名 幸子

◇入賞句

天位⑬ 古文書のひと文字解けてあたたかし
地位⑩ 鶯を連れて歩いていてるやうな
人位⑩ 菜の花や釘挿すだけの納屋の鍵
4位⑨ 祭獅子赤子泣かして帰りけり
〃⑨ さへづりといふ劇場に歩み入る
5位⑧ 風の筋日の筋格の雪晒し
〃⑧ うららかやはな咲くやうに嬰目覚め
〃⑧ 嬰のものどれも手洗ひ水温む
6位⑦ 青き踏むずつと元気でいたいから
〃⑦ 合格の春は階段一段とび
〃⑦ ここだけの話の長居春障子
〃⑦ 人生を柔らかに生き逢餅
受験子へ発車間際の富山弁
7位⑦ 東風吹くやベルがよく鳴る三輪車
白桃の明るさにて物忘れ
招き猫の貌ふいてやる万愚節
〃⑦ 逝くときは銀河鉄道春田打つ
〃⑦ 七人の敵一堂に花の宴
〃⑦ 指翫めて野焼の前の風を読む
〃⑦ 明日のこと知らぬ俵せ新茶くむ
〃⑦ ロボットに少女答えて暖かし
〃⑦ 蕨山帰る知らせのクラクション
川上 淑子
角田 睦子
高野 弘深
中村 良子
近藤 渥子
小坂優美子
澤井悠紀子
澤田 敏江
柄沢 恭子
上田 森子
中川 静子
小西 とみ
田中 憲子
木野本靖子
川辺智恵子
澤井悠紀子
森 純子
平譚 宏修
水木 柳子
吉崎 陽子
垣内 和代
菅野 桂子

8位⑤ リハビリの日に日に力日脚伸ぶ
〃⑤ コンピュータにもウイルスの居る寒さ
〃⑤ 跡継ぎは要らぬいらぬと種を蒔く
〃⑤ 万歳して眠りをる豊山笑ふ
〃⑤ 彼岸会や笑わせもして法を説く
〃⑤ 婿殿の足かも知れず春炬燵
〃⑤ 終ひ湯に嬰の香ほのとひひなの夜
〃⑤ 立山の見えるホームや卒業す
飯干ゆかり
牧田 孝子
数井 晴美
澤田 輝子
久崎富美子
成重佐伊子
坂田 直彦
二俣れい子
大坪沙智子
桑名 幸子
石川 彰子

富山県現代俳句協会

秋季吟行俳句大会(予告)

日時 九月三日(日)午前十時受付
会場 たてもん伝承館(魚津市諏訪町一丁六)
吟行地 米騒動発祥の地、蜃気楼ロード散策
参加費 千円
第十二回ジュニア俳句大会 表彰式
日時 十一月十八日(土)
会場 富山県教育文化会館

俳人協会富山県支部 俳句大会(予告)

協会員以外の方のご参加も歓迎いたします。
日時 九月二十三日(土・秋分の日)
会場 富山電気ビル 午後一時
講師 俳人協会理事長
「沖」主宰 能村 研三先生

講演要旨



生き延びるための俳句

「豈」同人 関悦史



私が俳句を始めたのは入院中で、以後も介護、震災とストレスのかかる状況で俳句でしのいできたところがあります。震災のときには、気晴らしになるというだけではなく、全国の見知らぬ俳人からまで義捐金や水、食料が届いて、それで乗り切ることができた。俳縁が社会関係資本の一種になっているわけです。固定した地縁等のコミュニティよりも遍路の集団のようなコミュニティに似た、浮動性と宗教性もややあるのでしょうか。そうした人間関係的なことと別にして、俳句という形式には、生き難い状況を前にした時、他のジャンルとは違う、固有の長所がちょっとあるのではないか。俳句はよく「物が言えない文芸」と言われますが、物を言ってしまうと句としてだらけやすいから、なるべく言わない方がいい。震災のときの句でいうと照井翠さんの句は感情表出が激しくて、同情、共感はさそっても、衝撃が句として昇華されていないものもあります。《春の星こんな人が死んだのか》《なぜ生きるこ

れだけ神に叱られて》《毛布被り孤島となりて泣きにけり》など。高野ムツオさんの場合でも有名句になった《車にも仰臥という死春の月》はまだ作者の感情が句によって浄化されたり無化されたりということにはなっていない。《膨れ這い捲れ攫えり大津波》という句のほうが、ナマの作者と切れて、認識に徹している。襲いかかってくる怪物の名を何とか探りあてようとしているような句になっています。俳句作品の享受を「共感」と「驚異」の二通りに大別すると、この数十年の俳句は心情・心象寄りになっているためか「共感」の要素が強くなって、「驚異」や物を描くという要素は薄れているようです。

精神分析の用語で「去勢」というのがあります。普通は動物の繁殖力をなくすための手術を言いますが、精神分析ではこれは幼児が言語と社会性を獲得するという事態を指しています。幼児的方能感にひたっていた主体が、自分は世界の王のような中心的存在ではなく、大勢のな

かの一人にすぎないという関係を理解するということです。いわば「去勢」されて初めて「人間」になるわけです。俳句形式が物が言えない・言わせないというのもそれに似ています。自分中心から一旦離れないといけないわけです。

震災のときの照井翠さんの有名句《双子なら同じ死顔桃の花》にしても、高野ムツオさんの《車にも仰臥という死春の月》にしても、修辭的には隠喩によって出ています。「双子のきれいな死に顔は桃の花に似ている」「仰臥した車は生きものであったように死んでいるようだ」という類似によって句の言葉が結びつけられています。言いたいことがある時、隠喩的になりやすい。しかし齋藤環によると、精神医学的には隠喩や象徴によって傷を掘り下げるような対処法というのは精神浄化よりもむしろ傷を固着させてしまうことになりかねないというんですね。句としても抜けの悪いものになりがちになります。

隠喩と対を成すのが換喩です。換喩というのは「似ている」という性質によってではなく、「隣接している、たまたまともに見出される」という原理で二つのものを結びつけます。警視庁のことを「桜田門」と呼んだりするのがこの換喩に当たります。この場合、警視庁は桜田門という土地に「似ている」のではなく、「そこにある（ともに見出される）」

という関係で結びつく。性質によって接近する必然性は特にないので、どうとでも横滑りし、ずれたり、拡散したりも出来ます。この、あらぬ方向へドライブがかかりやすいという性質が、精神的にも良いようですが、俳句としても重たくなるようです。

震災詠で言うと小原啄葉さんに《才子に会ひたるのみの婦毛かな》というのがあります。これはたまたまそこにいただけのボウフラに会うというのがやや換喩的で、自分は悲しいということを意味内容を重ねるように隠喩的に演説して伝えようとするよりも、悲しみがずっと伝わってきます。実際にはボウフラ以外のものもいろいろ残っているでしょう。そちらへ横滑りして、悲しみも後景化していくかもしれません。

芭蕉が晩年目指した境地に「かるみ」というのがあります。《木のもとに汁も鱈も桜かな》というのがその実作例になるようです。作句理念の説明としては「高く心を悟りて俗に帰す」と言われている。これは聖性の次元から日常の尊さを引き出すわけで、言い方を変えると、今のこの世の自分をあの世から見るということになるかと思えます。俳句を通じて自分の念いから離れ、自在になるために「隠喩」より「換喩」、「共感」より「驚異」ということを少し意識しておくといいかもかもしれません。

平成 28 年度 収支決算報告

(単位:円)

Table with 10 columns: 科目, 予算額(A), 決算額(B), 差(B-A), 備考, 科目, 予算額(A), 決算額(B), 差(B-A), 備考. Rows include 会費, 過年度分会費, 助成金, 寄附金, 合同句集代金, 雑収入, 繰越金, 合計.

(収支差額 385,461円は平成29年度へ繰越)

平成 29 年度 収支予算

(単位:円)

Table with 10 columns: 科目, 予算額(A), 前年度予算額(B), 差(A-B), 備考, 科目, 予算額(A), 前年度予算額(B), 差(A-B), 備考. Rows include 会費, 過年度分会費, 助成金, 寄附金, 合同句集代金, 雑収入, 繰越金, 合計.

消 息

○第一〇〇回千代女全国俳句大会 入賞 人は皆風の旅人風の盆 船平晩秋

○富山県現代俳句協会は平成二十九年年度総会、及び俳句大会を三月二十七日(日)県教育文化会館にて開催。出席五十名

天位

鮫鱈の生意気そうな貌を買っ

八尾とおる

地位

ふらここや裏山蹴って立山けつて

高木 昭夫

人位

赤ちゃんが赤ちゃんさわる桃の花

跡治 順子

○第28回北陸現代俳句大会を五月十三日(土)富山県民会館にて開催。北陸三県より百四名参加。講師は現代俳句協合理事の池田澄子先生。

県内関係者の入賞

一 位

朴咲くやたましいに色あれば白

久保美智子

三 位

時速百キロ逃水に追ひつけず

幹 自聲

講師特選

クリスマス前後新幹線の中 森川 敬三

句集出版紹介

岡田康裕合同句集「俳句の宙」

みりの俳句会合同句集第11号 平 28・12

海程富山「鮮」19号 平 29・3

城端俳句協会会誌第二十三号 平 29・3

高岡市教育委員会 高岡集 平成28年度 平 29・3

「岳」北陸支部合同句集「朴の花」 平 29・4

訃 報

県俳句連盟

理事 西尾博 信氏

平成二十九年四月十七日、ご逝去

謹んで哀悼の意を表します

第36回 とやま文学賞 作品募集

俳句 未発表句 二十句

(B4四角字詰原稿用紙を使用)

締切 平成二十九年九月末日

送り先 〒930-0006 富山市舟橋北町七一

(社)富山県芸術文化協会事務局

〈とやま文学賞〉係宛

編集後記

連盟会報84号をここにお届け致します。次回85号は平成二十九年十二月一日発行予定です。会報に関する記事等があれば、原稿用紙記入の上、左記に送付下さい。(郵送又はFAXのみ)

〒九三九一八一 南砺市理休二二六

FAX・TEL 〇七五 六二二二〇八